



谷口雅春先生の御教えを正しく受け継ぎ 次世代に繋ごう

夏号 (NO.13)

令和元年 8月 1日

公益財団法人
生長の家社会事業団
〒186-0003
東京都国立市富士見台 2丁目 39-1
TEL: 042-843-0075
FAX: 042-843-0076

躍進する生長の家社会事業団



浄めの雨の中、谷口雅春先生の墓前で報恩感謝の聖經を読誦する練成会参加者（於：多磨霊園）

谷口雅春先生三十四年墓前祭

三十四年（みそあまりよとせ）と聞くも師はここに
今かたはらに生きていまぬ

谷口雅春先生の正しいみ教えの
説かれるところに神癒と奇蹟は起こる

第3回谷口雅春先生報恩全国練成会2日目の6月22日、マイクロバス3台に分乗し、76名で多磨霊園に参拝。谷口雅春先生の墓前で聖經「甘露の法雨」を読誦し、参列者全員で焼香を行いました。

「人間の生命は無限でありま
す。皆さんの生命も無限であり
ます。私の生命も無限でありま
す。やがては此の私が、いつか
はこの地上から姿を消すように
見える時には、谷口雅春はとう
とう亡くなられたと思う時がく
るかもしれないけれども、決して
なくならないんです。（中略）

そして又、度々お目にかかる
機会がきますから、その時にや
はり今日の如く多勢集まって、
いや今日よりももっと広い会場
ができて、そこに集まって、御
挨拶を申し上げ、その挨拶を受
けて下さることになると信ずる
のであります。」（昭和57年11月
22日、谷口雅春先生卒寿記念式
典に於ける御言葉）

昭和六十年六月十三日の午前
三時三十分頃、谷口雅春先生は
「病無し、迷無し、罪なし、こ
れが生長の家の根本真理であり
ます。それでは神様、只今より
眠らせて頂きます。それでは神
様、只今より眠らせて頂きます」と、
同じ言葉を二回くり返され
ました。

このお言葉が神様への最後の
挨拶となり、六月十七日午前七
時五十三分に御昇天されました
が、三十四年経った今でも谷口

雅春先生の教えは生きていて、
常に私達を見守って下さって、
今なお谷口雅春先生の教えの説
かれるところには、奇蹟が連続
して起こってきます。この練成
会だって起こってきます。必ず
救われます。

この後、谷口雅春先生のお墓
にお参りに行きます。何か願
いのある人は、谷口雅春先生に
その願いの成就を祈って下さ
い。そうでない人は谷口雅春先
生に、この教えのお陰で今日の
幸せがありますと感謝の言葉を
述べて下さい。これが谷口雅春
先生のお墓にお参りする私達の
心構えです。（墓前祭前の講話より）

・いかに師はさとしたまふや
あらたなる令和の御代の
ひらけゆくさま
・赤き龍に
呑まれし教団正せとぞ
師のかなしみの声聞こえくる
・ころろさしひとつに来ね
すみのえの護国の神剣
うちふるふとき



人間神の子、の真理を知って行じたとき体験となる!!



神の子を生きる。決意を堂々と発表する加藤さん

なっています。今年の9月に退院しましたが、痛みと苦しみは毎日に成り、夜も眠れなくなりました。全身の三分の一の皮膚移植をした私のことは日本医師会でも発表され、今生きているのが不思議なくらいです。思うように動かないこの身体で、痛みや苦しみを抱えてどう生きていったらいいのか、生きていく力を得るためにこの練成会

に参加しました。二日目の朝、安東先生のご講話が心にストンと落ちました。禍転じて福となす、「転禍為福」の生き方。み教えを知って、行じたら信じる体験が生まれ生きる糧となること。人生を通して「徳」を積むこと。「自分は生かされている生命であった、自分は生長の家人として神の子として新生するぞ」と力が湧き上がり、身体の痛みが和らいでいきました。そのあと、谷口雅春先生の墓前にお参りし、「生長の家人」としてこのみ教えを生きていくことをお誓い申し上げました。私は事故がおきる以前の自分を知っている人に対してあることで頑なになっていました。練成会から帰り、以前トラブルがあり恨みに思っていた近所の方々に、一軒一軒お詫びして周りました。相手の方々も話してみると親切な言葉をかけてくださり、心の重荷がとれて何とも清々しい心になりました。そんな自分になれたことが一番嬉しいことです。

も左手は使えるから病院のトイレを清めることはできると思い実行しました。そうしている内に右半身も動くようになり車椅子から杖歩行になり、杖なしで歩けるようになりました。しかし、右足はどうしても遅れるので走ったこともジャンプしたこともなく、右足が地面から離れることはありませんでした。朝、あれは現実だったのか、夢だったのかと不思議な感覚でした。でも、ちよつとやってみようと思えばジャンプしたら、地面から離れることがなかった右足が地面から離れ本当にジャンプ出来ました。

次回は10月4日(金)〜6日(日)

身体1/3の大火傷を乗り越え「転禍為福」の人生を!
私は木材を加工して販売する仕事をしていました。昨年五月、木材を削った後のおが屑に石油を噴射し、焼却炉で燃やしておりました。その焼却炉が、かなり古くなっていたのが壊れて、火のついたおが屑が飛び散りました。慌てて消しに行った私の足に引火し、膝下全部骨まで焼ける大火傷を負いました。病院に運ばれ、しばらく人工皮膚で覆い、その後、10時間以上の手術を3回行い、上半身の皮膚を移植して、今は自分の皮膚だけになっていきます。今年の9月に退院しましたが、痛みと苦しみは毎日に成り、夜も眠れなくなりました。全身の三分の一の皮膚移植をした私のことは日本医師会でも発表され、今生きているのが不思議なくらいです。思うように動かないこの身体で、痛みや苦しみを抱えてどう生きていったらいいのか、生きていく力を得るためにこの練成会

夢でジャンプしている私が現実!
練成会二日目の夜、夢を見ました。その時は夢と思っていないのです。この道場で皆で輪になって、ポンポンポンと三回ジャンプしました。「エッ私ジャンプしてる!」と驚きました。私は10年前、脳梗塞で右半身麻痺になり、病室で安東先生の御講話テープを聴き続けました。死相が出ている小僧が感謝でトイレ掃除をしたら一夜にして長命の相に変わったというお話を聞いて、私

も左手は使えるから病院のトイレを清めることはできると思い実行しました。そうしている内に右半身も動くようになり車椅子から杖歩行になり、杖なしで歩けるようになりました。しかし、右足はどうしても遅れるので走ったこともジャンプしたこともなく、右足が地面から離れることはありませんでした。朝、あれは現実だったのか、夢だったのかと不思議な感覚でした。でも、ちよつとやってみようと思えばジャンプしたら、地面から離れることがなかった右足が地面から離れ本当にジャンプ出来ました。

次回は10月4日(金)〜6日(日)



笑いの大会。で優勝した瀧安信さんと応援する妻のくに子さん

よるこびの体験
現教団を辞めて十四年、本当の生長の家の練成会に何が何でも逢々能登から参加してくださいと谷晃吉さん(84歳)。「父母に感謝」の講話後、直ぐ故郷の両親に電話で感謝を伝えた竹田護さん(33歳)。「生んでくれてありがとう」の言葉に「生まれて来てくれてありがとう」と返ってきました」と喜びの発表等、数々のドラマが生まれた練成会でした。

も左手は使えるから病院のトイレを清めることはできると思い実行しました。そうしている内に右半身も動くようになり車椅子から杖歩行になり、杖なしで歩けるようになりました。しかし、右足はどうしても遅れるので走ったこともジャンプしたこともなく、右足が地面から離れることはありませんでした。朝、あれは現実だったのか、夢だったのかと不思議な感覚でした。でも、ちよつとやってみようと思えばジャンプしたら、地面から離れることがなかった右足が地面から離れ本当にジャンプ出来ました。

も左手は使えるから病院のトイレを清めることはできると思い実行しました。そうしている内に右半身も動くようになり車椅子から杖歩行になり、杖なしで歩けるようになりました。しかし、右足はどうしても遅れるので走ったこともジャンプしたこともなく、右足が地面から離れることはありませんでした。朝、あれは現実だったのか、夢だったのかと不思議な感覚でした。でも、ちよつとやってみようと思えばジャンプしたら、地面から離れることがなかった右足が地面から離れ本当にジャンプ出来ました。

次回は10月4日(金)〜6日(日)

泣いて泣いて笑って笑って!数々のドラマが生まれる!!
去る六月二十一日〜二十三日まで、「第三回谷口雅春先生報恩全国練成会」を開催。秋田県から宮崎県まで一三〇名(内全期参加六十二名)が参加。谷口雅春先生が御昇天されて三十四年になる月、二日目に墓前祭を行い(一面に掲載)、み教えにふれた喜びが噴き上がる練成会となりました。4月に脳梗塞で倒れ復職にむけてリハビリ中の瀧安信さん(63歳)は無理やり奥様に連れて来られました。昔、奥様から「笑いの実修」をやっていると聞いて、「よくそんなことやってるなあ」と思ったそうですが、すっかりハマってしまい、笑いの大会で優勝。「谷口雅春先生の教えの深さに感動しました。これからは知行行を肝に銘じ生活します」と決意。

も左手は使えるから病院のトイレを清めることはできると思い実行しました。そうしている内に右半身も動くようになり車椅子から杖歩行になり、杖なしで歩けるようになりました。しかし、右足はどうしても遅れるので走ったこともジャンプしたこともなく、右足が地面から離れることはありませんでした。朝、あれは現実だったのか、夢だったのかと不思議な感覚でした。でも、ちよつとやってみようと思えばジャンプしたら、地面から離れることがなかった右足が地面から離れ本当にジャンプ出来ました。

も左手は使えるから病院のトイレを清めることはできると思い実行しました。そうしている内に右半身も動くようになり車椅子から杖歩行になり、杖なしで歩けるようになりました。しかし、右足はどうしても遅れるので走ったこともジャンプしたこともなく、右足が地面から離れることはありませんでした。朝、あれは現実だったのか、夢だったのかと不思議な感覚でした。でも、ちよつとやってみようと思えばジャンプしたら、地面から離れることがなかった右足が地面から離れ本当にジャンプ出来ました。

次回は10月4日(金)〜6日(日)

衛藤晟一 参議院議員

当選おめでとうございませう!!

参議院選挙から三日後の七月二十四日、生長の家社会事業団が推薦した、衛藤晟一議員を参議院議員会館に訪ね、選挙戦の感想や抱負を語っていたきました。

☆ひしひしと感じた国民の期待

この度の選挙で、全国各地でご支援賜りました多くの皆様にご感謝申し上げます。とりわけ福祉関係者、そして皇室、憲法改正に対して熱い思いをもっておられる方々からの激励が非常に多く、何としても頑張らなければと思いました。

☆世界に誇る日本の皇室を護るために

令和の御代替わりについて色々な形でお手伝いさせて頂き、歴史に則った形で行うことが出来、本当によかったと思っています。平成・令和と二回の



御代替わりに立ち合わせて頂く中で、改めて皇室をお護りしなければとつくづく感じます。

歴代天皇が男系で続いてきた歴史の重み、それを大事にしてきた日本人の重みを感じて、我々がきちんとした結論を出してゆかなければならないと、改めて使命の大きさを感じています。

また、天皇陛下御即位奉祝国会議連の実行委員長を拝命し、ありがたいお仕事をさせて頂くことに感謝しております。

☆憲法改正に向けて

憲法改正の国民投票の国会発議に必要な三分の二議席まで、あと四議席に迫ったことは大したものです。我々ももつと窓口を広げ、他党にも徹底的な本格的な議論に参加して頂けるようにして、是が非でも達成したいと思っています。

☆一人一人が世の光

まともな議論もせずただ不安をあおる政治から、希望に輝く日本を創る政治にしてゆかなければならないと思っています。

私は谷口雅春先生から多くのことを教えて頂きました。障害者福祉でも、人間は神の子仏の子という教えから、単に弱い立場の人に光を当てると言うのではなく、障害のある人も無い人も皆神の子で、一人一人は世の光だという気持ちを決して忘れてはならない。

そして憲法改正、皇室の問題、人間は皆神の子仏の子との教えの実践は、私の使命だと思っています。(文責・編集部)

現教団が信徒に推奨してきた『日本会議の研究』は名誉毀損・虚偽の書籍であるとの判決!!



正義の判決を下した東京地裁

六月十九日、東京地方裁判所は、書籍『日本会議の研究』の著者菅野完被告に対して、同書の記述が名誉毀損に当たり、かつ、真实性も真実相当性も認められない虚偽の書籍であると認定し、賠償金の支払いを命じる判決を下し、報道各社が全国に報道しました。

この書籍は、谷口雅宣総裁の指導する現教団が、平成二十八年六月八日の最高首脳者会で、今夏の参議院選挙に対する方針（共産党等の野党支持）を決定した際に、教団の全組織・講師・信徒に購読・学習を推奨し、教団の聖典頒布部門である世界聖典普及協会では「聖典・書籍」として取扱ひ、総裁の講習会や教化部・練成道場で頒布されてきたものです。

六月十九日、東京地方裁判所は、最高首脳者会の決定後直ちに、このことは生長の家立教の使命に照らして重大な過ちであることを、「公式声明」で発表しました。

そして今、裁判所の判決という、公的な事実認定により、「公式声明」の正しさが明らかとなりました。

それで生長の家社会事業団は、六月二十三日、全国の練成道場・生長の家教化部に対して、裁判所の判決を伝える「緊急速報」と報道内容をお伝えしました。

現教団が、裁判所から名誉毀損・虚偽であると認定された書籍を取扱ひ、公に信徒に推奨してきたことの責任は重大であります。

現教団の指導者・執行部は、自らの深刻な過ちについて猛省し、全信徒に謝罪するとともに、潔く社会的責任をとるべきであります。

令和元年6月23日
 宗教法人「生長の家各練成道場」総務殿
 宗教法人「生長の家各教化部」主管殿
 公益財団法人生長の家社会事業団

【緊急速報】東京地裁、菅野完氏著『日本会議の研究』は名誉毀損・事実無根の内容であるとの判決！

東京地方裁判所は、6月19日、『日本会議の研究』の著者菅野完氏に対し、同書に記述された個人（80歳男性、元本部理事）についての記述（5箇所全部）が、いずれも同人の名誉を毀損し、真实性も真実相当性も認められない虚偽記述であると認定し、不法行為として賠償金支払いを命じる判決を下し、報道各社が全国に報道しました。（報道記事別紙のとおり）

全国の現教団幹部への社会事業団からの速報

